

I. まちづくりの合言葉

1970年代から、ただひたすら利便性を追求してきた結果、私たちは豊かさを手に入れたように感じていましたが、同時に大規模な自然災害、あるいは凶悪な犯罪の頻発など、深刻で複雑な問題に直面することになりました。

「これで良かったのか」、「このままでいいのか」、「真の豊かさとは何か」、誰もが気づき始めているのに抜本的な解決策を見出せない、それが今の社会の在り様ではないでしょうか。

このような背景から、今後10年間のまちづくりにおける最も優先する姿勢として、次の合言葉を掲げます。

『 手間、暇 かけて 』

～ 行政改革から行政創造へ～

大量生産、大量消費、大量廃棄社会の中で、「手間なし」、「手間いらず」に価値を見出してきたこれまでの反省し、「手間」と「暇」をかけて、町民のみなさんと一緒にじっくりと、高根沢町のあり方を考え、丁寧に、着実に実現していくことが、今、必要なことではないかと考えます。

「あれも、これも」ではなく「あれか、これか」に。目先の利益を追求する社会に決別し、限りある資源を、本当に必要なところに集中させる仕組みをつくること、それが行政の果たすべき責任です。そして町の目指す姿や地域の課題を町民のみなさんと共有し、役割分担していくこと、ともに汗を流すことが、町民のみなさんから信頼を得るための、「手間、暇」かけたまちづくりです。

またこれからのまちづくりは、そこに暮らす生活者の視点が求められています。そのためには、ほんの少し、みなさんの労力と時間を地域に分けていただく必要があります。その一人ひとりの町を想う心、町を愛する心が、地域の力を呼び覚ますための「手間、暇」かけたまちづくりです。